（別紙4（2））

事業所名　元気ホーム北松戸

作成日：令和 2年 8月 10日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に参加出来る家族、職員と共に限られ,またコロナウイルスの影響で通常の開催が行われず、職員と利用者、家族、第三者の間での意見交換と交流という本来の役割が十分行えていない。話し合った内容の記録が不十分のため職員間での共有が十分行われていない。	出来るだけ多くの家族、職員が参加できるようにしていく。職員と利用者、家族、第三者が意見交換、交流を行い、話し合った内容の共有を図り、本来の役割を強化していく。	運営推進会議には管理者以外の職員が書記として回り持ちで参加する。会議は入居者が生活しているスペースで行い、参加できそうな入居者には加わって頂く。新型コロナウイルス対応で当面はアンケートと活動内容・検討結果報告という形で行い、職員間の回覧や活動報告をインターネットで行い家族、利用者、第三者と共有を図るようにしていく。	6～12月
2	7 10	職員は、日頃管理者へ個別にいろいろ意見や相談があり、自分の考えを持っているが、職員会議やカンファレンスなど話し合いの場では自分の考えを、伝えることが出来ていない。会議の内容が漠然としてしているため進行に時間がかかっている。	職員の日ごろ行っている業務からテーマを決め職員が課題や目標に関心を持ち、会議に参加できない時も事前に意見を伝え、会議で決まったことは職員間で共有し、業務に反映していく。	利用者個別の課題シートを用意し、会議までの間に意見を募集する。会議に際しては個別援助計画書の原案を作りながら行う形とし、書き込む項目を追いながら話し合う。日頃の日誌を書く用紙に今の目標や観察点を記載する様な仕組みを作り、書く時に意識しやすくする。	6月
3	13	避難訓練がいつも同じになりがちで、玄関まで移動して終わりになり、内容も今のところは火災ばかりになっています。	地震・風水害・感染症蔓延などいろいろな状況を想定したシミュレーションと考察を行い緊急時の対応マニュアルを作成し職員の実践力を身につける	地震・風水害・感染症蔓延と隔離対応などを状況として取り入れる。救急車対応の実際や入院患者が出た時の対応などもシミュレーションする。また時間の半分は話し合いとし、リスクマネジメントや今行うべきことなどを話し合って災害対応の強化につなげる。	6月
5					

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。